

2015年3月期 第1四半期決算報告 個人投資家の皆さまへ

一生のパートナー

第一生命

第一生命保険株式会社

証券コード:8750

2015年3月期 第1四半期決算のポイント

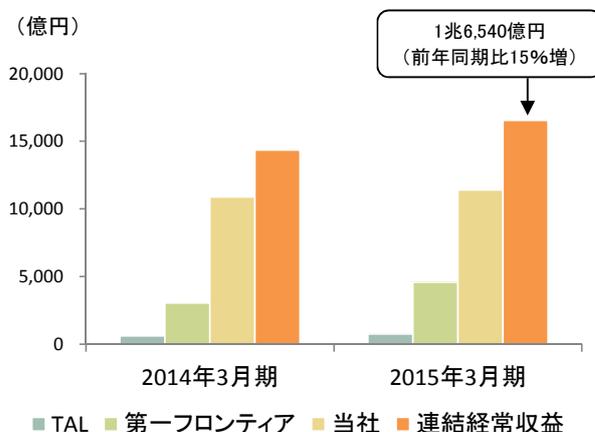
- 2015年3月期第1四半期の連結経常収益は前年同期比二桁の増収となりました。国内外の生保各社において保険料等収入が増加したことが主な要因です。
- 連結経常利益・連結純利益は大幅増益となりました。国内外の金融環境が良好に推移する中、タイムリーな投資行動が奏効し、第一生命単体の資産運用収支が改善しました。第一フロンティア生命の純損失が大幅に縮小したこととTALが大幅増益となったことも寄与しました。
- 2015年3月期の連結業績予想は、第一フロンティア生命における好調な販売実績を踏まえ経常収益の通期予想を上方修正しました。一方で、連結経常利益、純利益は据え置きとしました。

(1) 経常収益

連結経常収益は1兆6,540億円(前年同期比15%増)となりました。

保険料等収入は第一生命単体に加え、第一フロンティア生命(以下、「第一フロンティア」)、オーストラリアのTAL社(以下、「TAL」)の各社で増加しました。第一フロンティアでは、外貨建商品を中心に保険販売の好調が続きました。

経常収益 第1四半期実績

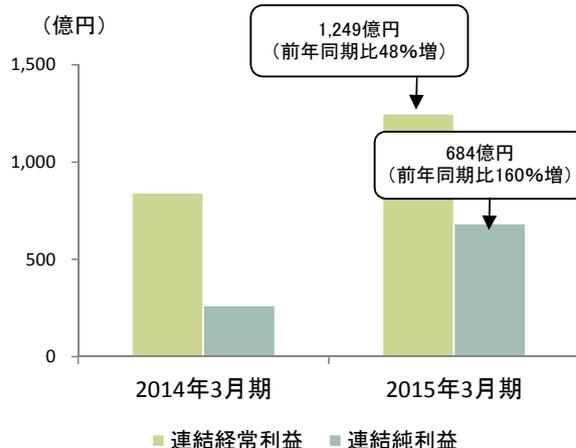


(2) 経常利益・純利益

連結経常利益は1,249億円(前年同期比48%増)、連結純利益は684億円(同160%増)となりました。

第一生命単体では、利息配当金等収入の増加や有価証券売却損益の改善など資産運用収支が良好に推移しました。また、第一フロンティアでは高水準の保険販売が続き預り資産残高が増加した結果、純損失が大幅に縮小しました。

経常利益・純利益 第1四半期実績

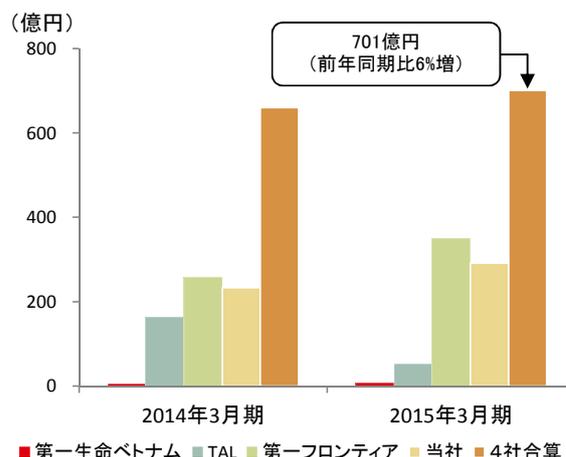


(3) 新契約の状況

新契約を1年あたりの保険料に換算した新契約年換算保険料は、第一生命単体(個人保険・個人年金保険)、第一フロンティア、TAL、第一生命ベトナムの4社合算で、701億円(前年同期比6%増)となりました。

第一生命単体では前年4月に実施した料率改定に伴う販売減から回復し前年同期比で増加となりました。第一フロンティアの新契約は、お客様ニーズを捉えた機動的な商品展開や販売委託先の拡大・関係強化を通じて好調を維持しています。

新契約年換算保険料 第1四半期実績

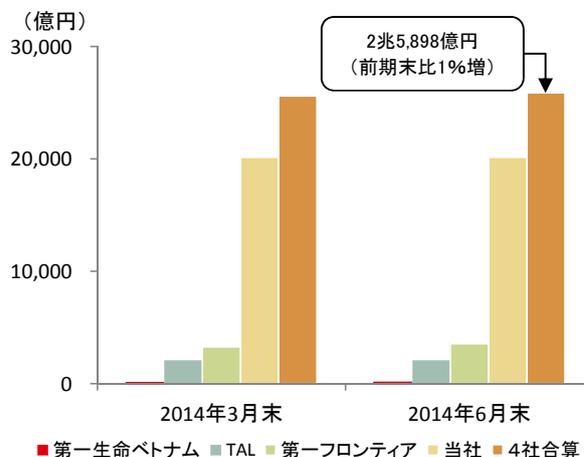


(4) 保有契約の状況

保有契約を1年あたりの保険料に換算した保有契約年換算保険料は、第一生命単体、第一フロンティア、TAL、第一生命ベトナムの4社合算で、2兆5,898億円(前期末比1%増)となりました。

第一生命単体の保有契約年換算保険料は、前期末比で横ばい、うち医療保険等第三分野は同1%増となりました。第一フロンティアは同9%増、TALは円ベースで同1%増など、成長分野の保有契約年換算保険料はいずれも増加しました。

保有契約年換算保険料



(5) 含み損益

第一生命単体の一般勘定資産の含み損益(2014年6月末)は、3兆4,131億円となりました。
 前期末と比較すると、内外の金利低下と株価上昇により有価証券の含み益が増加しました。一般勘定資産全体では前年度末比で3,626億円の増加となりました。

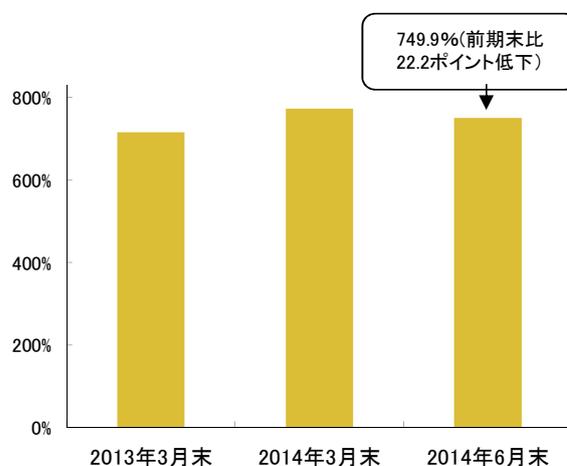
含み損益(当社単体、一般勘定)

	2014年 3月末	2014年 6月末	増減
有価証券	30,056	33,785	+3,729
うち国内債券	13,813	15,405	+1,592
うち国内株式	9,318	10,871	+1,553
うち外国証券	6,422	7,027	+604
不動産	482	479	△2
その他共計	30,505	34,131	+3,626

(6) ソルベンシー・マージン比率^(注)

第一生命単体のソルベンシー・マージン比率(2014年6月末)は、資産運用リスクの増加を主な理由として、前期末比22.2ポイント低下し、749.9%となりました。

ソルベンシー・マージン比率の推移



(注)ソルベンシー・マージン比率とは？

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに備えて「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。

具体的には、生命保険会社が抱える保険金等のお支払いに係るリスクや資産運用に係るリスクなど、多様なリスクが通常の予測を超えて発生した場合、資本などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージン総額)で、これらリスク(リスクの合計額)をどの程度カバーできているかを指数化したものです。

同比率の算出は、ソルベンシー・マージン総額をリスクの合計額で割算して求め、同比率が200%以上であれば、健全性についてひとつの基準を満たしていることを示しています。

(7) 業績予想

2015年3月期の連結業績は、第一フロンティアにおける好調な販売実績を踏まえ経常収益の通期予想を上方修正しました。

一方で、連結経常利益、純利益については、第1四半期に計上した有価証券売却益と同水準の売却益を第2四半期以降は見込んでいないことや、現在検討が進められている法人税減税の決算への影響を見極める必要があることなどから、現時点では通期予想を据え置きとします。

連結業績予想

	2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (予想)	増減
経常収益	60,449	56,070	△ 4,379
経常利益	3,047	2,460	△ 587
純利益	779	800	+20
(円)			
1株当たり ^(※1,2)			
純利益	79	67	△ 11
1株当たり			
期末配当金	20	25	+5

(※1) 1株当たり純利益の計算に際しては、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が所有する当社株式及び信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-ship®)により第一生命保険従業員持株会専用信託が所有する当社株式を除いています。

(※2) 1株当たり純利益は、2014年7月3日開催の取締役会において決議しました新株式発行を考慮しております。

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または暗示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。